

〈受賞者の声〉

令和2年度 功績賞

東京カレッジ 国際高等研究所
特任教授 味 埜 俊

～味埜氏からメッセージ（受賞スピーチより）～

私はEICAに所属して10数年になりますが、そのきっかけになりましたのが、田子幹事長より紹介されました、今回同賞受賞の理由ともなりましたEICA未来プロジェクトへのアドバイザーとしての参加です。

私は最近では東京大学の中で“サステナビリティ”というキーワードを使って研究・教育を行ってきましたが、その“サステナビリティ”をEICA未来プロジェクトの大きなテーマとしたいのでアドバイスを欲しいという依頼をもらったのが始まりです。

サステナブルな世の中を作るのに大切なことは何かと考えた時に、間を飛ばして結論だけ言うと、いろいろな人とつながって、様々な価値観に自分を晒すということだと思います。対峙した価値観が自分に合わなくても、それは私の考えとは違う、と言えいいだけのことであって、そのうえで色々な考え方を認めることが大事です。

このコロナ禍の中で、様々な考え方、新型コロナウイルスに対しての見方や、立場の違いから生まれる考え方の違い、新型コロナウイルスに感染しやすい人、そうでない人、重症化しやすい人、そうでない人、そのような様々な“違い”が社会の分断を作ってしまう、そしてそのような分断が積み重なっていくと、社会がギスギスしていってしまいます。多様性を認めようと言われてますが、このような場面でこそ「多様」であることを認めていくことが大事なのだと思います。サステナビリティにとってはギスギスしないことが何よりなのではないでしょうか。

さて、EICA未来プロジェクトは人のつながりをつくることを目標に掲げているということで、まさに我が意を得たり、と共感し、協力してまいりました。それがこの賞をいただくことにつながったこと、大変ありがたく思います。

この未来プロジェクトをぜひ継続し、様々な人とつながりを作り、様々な考え方に接し、そして世の中に貢献していく、そういうプロジェクトにこれからもなっていってほしいなと思います。本日はありがとうございました。



東京大学東京カレッジからライブ中継



味埜氏 受賞スピーチ